



新国立劇場



新国立劇場 2018/2019 シーズンオペラ

ジュール・マスネ

ウェルテル Werther

2019 年 3 月 19 日(火)~26 日(火)

会場:新国立劇場オペラパレス 2018 年 11 月 17 日(土)発売



新国立劇場『ウェルテル』2016 年公演より 撮影:寺司正彦

愛の歓び、そして苦しみ。文豪ゲーテの傑作をオペラ化した珠玉のフランス・オペラ

ゲーテの『若きウェルテルの悩み』をマスネがロマンティズムあふれる色彩豊かな音楽で描いたフランス・オペラ珠玉の名作。ニコラ・ジョエルの演出は、ゲーテの原作の世界を具現化したような美しい舞台と正統派のアプローチで評判となったもの。冒頭では自然の美しさが、終盤では逃れようのない閉塞感が観る者の心を揺さぶり、雄弁な音楽と相まって心情を伝えます。

ピルグのウェルテル、藤村実穂子のロールデビューに世界のオペラ・ファンが注目！

タイトルロールには世界の最前線で活躍するテノール、サイミール・ピルグが登場！目下最注目の正統派テノールとして、リリカルな美声と端正な演技で世界中の観客を魅了しているピルグのウェルテル役は見逃せません。そして日本が生んだメゾのスター、藤村実穂子がこの公演でシャルロット役にロールデビュー。知的で繊細なアプローチを特徴とする藤村実穂子が苦悩するヒロインをどう演じるのか、世界の音楽界から注目が集まっています。

シャルロットと結婚するアルベールには、国内きってのスタイリッシュな演技派バリトンとして活躍する黒田博、清純な妹ソフィーには 12 月の『ファルスタッフ』でも好演した幸田浩子が出演。指揮は国立ボルドー・アキテーヌ管弦楽団音楽監督のポール・ダニエル。オペラ・ファンには見逃せない、真の贅沢な公演です。

< 資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ >

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

愛の歓び、そして苦しみ。文豪ゲーテの傑作をオペラ化した珠玉のフランス・オペラ

多感な青年ウェルテルと貞淑なシャルロットの成就することのない恋。『ウェルテル』はドイツの文豪ゲーテの小説『若きウェルテルの悩み』を、「タイスの瞑想曲」で有名なフランスの作曲家ジュール・マスネがオペラ化した作品。“ウェルテル効果”といった社会現象を引き起こすほどの大人気小説であった『若きウェルテルの悩み』が、マスネならではの色彩豊かな音楽でオペラ化されています。シャルロットの「手紙の歌」、ウェルテルの「オシアン」の詩（春風よ、なぜ目を覚まさせるのか）など、独立して歌われることも多いドラマティックなアリアも魅力。フランス・オペラの代名詞と言える作曲家マスネの中でも、『マノン』と並び世界的に上演の多い人気オペラです。



ゲーテの世界を雄弁に伝える美しい舞台美術



新国立劇場で2016年に初演された巨匠ニコラ・ジョエル演出のプロダクションは、美しく写実的な舞台美術が大きな見どころ。ウェルテルの心情に寄り添い、彼が自然を称える冒頭シーンでは18世紀ドイツ・ヴェツラーの町の禁欲的な建築の狭間に大樹を投影。重厚な建物と輝かしい新緑の対比の美しさ、繊細な木漏れ日に客席まで包まれるような照明の効果が客席をあっという間に驚かせました。幕が進むにつれ、季節の移ろいを描写すると共に、舞台は徐々に閉塞的になり、苦悩するシャルロットの息詰まるような部屋に続いて、最終幕では天井まで及ぶ書棚に覆われたウェルテルの書斎が彼の最期の場となります。クラシカルながら格調高く洗練された美術は近年では貴重なもので、大評判となりました。美術や映像に興味のある方にもぜひ観ていただきたい舞台です。

ピルグのウェルテル、藤村実穂子のシャルロット。 世界のオペラ・ファンが注目する、トップ歌手のロールデビュー。



サイミール・ピルグ

世界中で『ウェルテル』上演となれば注目の的となるタイトルロール、今回は世界の最前線で活躍するテノール、サイミール・ピルグがウェルテル役に登場します。目下最注目の正統派テノールとして、リリカルな美声と端正な演技で世界中の観客を魅了しているピルグのウェルテルは見逃せません。

そして日本が生んだメゾのスター、藤村実穂子は実に13年ぶりの新国立劇場登場となるこの公演で、シャルロット役にロールデビューします。知的で繊細なアプローチを特徴とする藤村実穂子が苦悩するヒロインをどう演じるのか、世界の音楽界から注目を集めています。歌手にとって、ロールデビューはキャリアの大きな節目です。新国立劇場という環境、そして日本の観客の前でトップ歌手がロールデビューを果たすという事実は、世界のオペラ界に絶大なインパクトを与えるでしょう。オペラ・ファンならば、是非とも立ち合いたい瞬間です。



藤村実穂子

<「ウェルテル」あらすじ>

【第1幕】7月。子供たちがクリスマス・キャロルの練習をしている大法官の家に、詩人ウェルテルがやってくる。彼は、舞踏会で大法官の長女シャルロットの相手をつとめるために来たのだ。幼い弟妹たちの母親代わりをするシャルロットの美しい佇まいに、ウェルテルの胸がときめく。舞踏会から帰宅したウェルテルはたまたまシャルロットに愛を告白する。しかし彼女には、亡くなった母と約束した婚約者アルベールがいた。ウェルテルは絶望する。

【第2幕】9月、牧師の金婚式のため、教会に人が集まっている。結婚して3ヶ月目のシャルロットとアルベールが教会に入る様子を、ウェルテルは遠くから眺めている。シャルロットの妹ソフィーがウェルテルへの好意を口にする。教会から出てきたアルベールに明るく振る舞うウェルテルだが、シャルロットには詰め寄り、再び愛を訴える。その思いに応えられないシャルロットは、街を離れることをウェルテルに勧め、クリスマスに再会することを約束する。ウェルテルは永遠に街を出ていくことを決意する。

【第3幕】クリスマス・イブの夕方。ウェルテルからの手紙を何度も読み返し、彼への思いに揺れるシャルロットの前に、約束通りウェルテルが現れる。オシアンの詩に思いを託して朗読したウェルテルは、激しく愛を告白する。シャルロットは思わず抱かれるが、決然と別れを告げて部屋から去る。アルベールは、ウェルテルからの妻宛ての手紙を見て怒りに燃える。手紙の中で彼は旅に携行する銃を望んでおり、アルベールは使用人に届けさせる。

【第4幕】胸さわぎを覚えたシャルロットがウェルテルの家へ向かうと、拳銃自殺を図ったウェルテルが瀕死の状態で横たわっていた。ウェルテルは、君を思って死ぬるのは何より幸せだと語り、シャルロットは、初めて会った時から愛していたと告白し、口づけする。子供たちが歌うクリスマス・キャロルが聴こえるなか、ウェルテルは息を引き取る。

＜主要キャスト・スタッフプロフィール＞

【指揮】ポール・ダニエル

Conductor : Paul DANIEL

イギリス生まれ。1987-1990年オペラ・ファクトリー、90-97年オペラ・ノース、97-2005年イングリッシュ・ナショナル・オペラのそれぞれ音楽監督を務め、現在国立ボルドー・アキテーヌ管弦楽団およびガリシア・ロイヤルフィルハーモニー管弦楽団音楽監督。このほか英国ロイヤルオペラ、ブリュッセル・モネ劇場、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場などに出演している。コンサートでは、フィルハーモニア管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、バーミンガム交響楽団、ゲヴァントハウス管弦楽団、クレーブランド管弦楽団、ニューヨーク・フィル、ロサンゼルス・フィルなどを指揮した。オペラでは『コジ・ファン・トゥッテ』『フィガロの結婚』『ルチア』『シモン・ボッカネグラ』『真珠採り』『トリスタンとイゾルデ』『こびと』『ヴェニスに死す』『マクローブス事件』『村のロメオとジュリエット』など幅広い作品を取り上げている。最近では、英国ロイヤルオペラ『グロリアーナ』（ブリテン）、ブレゲンツ音楽祭、英国ロイヤルオペラ『Lucky Miss Fortune』（ジュディス・ウィアー）、モネ劇場『ルル』、パリ・オペラ座『子どもと魔法／こびと』、ベルリン・ドイツ・オペラ『トロイ人』、フランクフルト歌劇場『A Village Romeo and Juliet』（フレデリック・ディーリアス）ストラスブール歌劇場『金閣寺』などを指揮。ボルドー・アキテーヌ管弦楽団とはボルドー歌劇場『トリスタンとイゾルデ』『エレクトラ』で特に賞賛を受け、18/19シーズンには『アンナ・ボレーナ』『ワルキューレ』などを指揮する予定。ナクソスレーベルのエルガー交響曲第3番をはじめ、ボルドー・アキテーヌ管弦楽団と多くの録音を行い、またブリュッセル・モネ劇場でのバーバラ・ハンニガン主演『ルル』はDVD発売されている。98年にはオリヴィエ賞受賞、2000年にはCBEに叙せられている。新国立劇場初登場。



【演出】ニコラ・ジョエル

Production : Nicolas JOEL

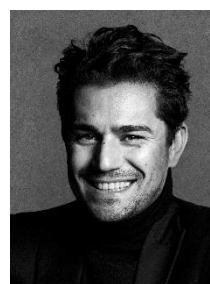
フランスのパリ生まれ。1973年から78年までストラスブールのライン・オペラで演出アシスタントを務めた後、79年にライン・オペラとリヨン歌劇場で「ニーベルングの指環」で演出家としてデビューした。90年から2009年までトゥールーズ・キャピトル劇場の芸術監督を務めた。ウィーン国立歌劇場『アイーダ』、サンフランシスコ・オペラ『サムソンとデリラ』、デンマーク王立歌劇場『ローエングリン』、アムステルダム歌劇場『エウゲニ・オネーギン』『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』、チューリヒ歌劇場『リゴレット』『椿姫』『運命の力』、ミラノ・スカラ座『つばめ』『マノン』、英国ロイヤルオペラ『ロメオとジュリエット』、ブエノスアイレスのコロン劇場『カルメン』、メトロポリタン歌劇場『アンドレア・シェニエ』など多くの話題作を手がけた。オランダ音楽祭では『さまよえるオランダ人』『ナブッコ』『アイーダ』『オテロ』『カルメン』『ロメオとジュリエット』などを続けて演出、成功を収めた。また芸術監督を務めたトゥールーズ・キャピトル劇場では『イル・トロヴァトーレ』『ファルスタッフ』『エレクトラ』『エウゲニ・オネーギン』『リゴレット』『ロメオとジュリエット』などを演出。パリ・オペラ座をはじめ各地で『ロメオとジュリエット』『トゥーランドット』『タイス』『ラ・ジョコンダ』『シチリア島のタペの祈り』『ディドとエネアス』『ファウスト』などの作品が上演されている。2009/2010 シーズンから2013/2014シーズンまでパリ・オペラ座総監督。



【ウェルテル】サイミール・ピルグ

Werther : Saimir PIRGU

アルバニア出身。イタリアでパヴァロッティのもとで学び、22歳でアバドに『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドに抜擢されフェラーラ歌劇場に出演、2004年ザルツブルク音楽祭に同役でデビュー、同音楽祭の主要な役での最年少出演を果たす。05年にウィーン国立歌劇場、ハンブルク歌劇場、06年ボローニャ歌劇場、チューリヒ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、07年ナポリ・サンカルロ歌劇場、ベルリン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラにデビュー。これまでにメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ヴェローナ音楽祭などに出演。最近の出演に、モスクワ・ボリショイ劇場『ファウストの劫罰』タイトルロール、英国ロイヤルオペラ、オペラ・オーストラリアのシマノフスキ『ロジェ王』羊飼いの、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ヴェローナ音楽祭『リゴレット』マントヴァ公爵、メトロポリタン歌劇場、サンタフェ・オペラ、ベルリン州立歌劇場『椿姫』アルフレード、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ『愛の妙薬』ネモリーノ、ザルツブルク音楽祭、ウィーン楽友協会、バイエルン放送響、パリ・フィルハーモニー、アムステルダム・コンセルトヘボウでのヴェルディ『レクイエム』などがある。最近ではナポリ・サンカルロ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』ガブリエーレ・アドルノ、バルセロナ・リセウ大劇場『ロメオとジュリエット』ロメオ、バイエルン州立歌劇場、サンカルロ歌劇場『リゴレット』マントヴァ公爵などに出演。18/19シーズンはウィーン国立歌劇場『椿姫』『愛の妙薬』、シャンゼリゼ劇場『リゴレット』『椿姫』に出演したほか、パルマ王立歌劇場『仮面舞踏会』、サンカルロ歌劇場『蝶々夫人』などに出演予定。新国立劇場には17/18シーズン『愛の妙薬』ネモリーノでデビューを飾った。



【シャルロット】藤村実穂子**Charlotte : FUJIMURA Mihoko**

東京藝術大学およびミュンヘン国立音楽大学に学ぶ。数々のコンクールに優勝後、1995-2000年にはグラーツ歌劇場に専属歌手として所属する。02年にバイエルン州立歌劇場およびバイロイト音楽祭に出演し国際的な注目を集め、以後、英国ロイヤルオペラ、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、パリ・シャトレ座、マドリッド王立歌劇場のレアル劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイロイト音楽祭などに定期的に出演している。オペラのレパートリーには『パルジファル』クンドリー、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『ニーベルングの指環』フリッカ、『イドメネオ』イダマンテ、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『ドン・カルロ』エボリ公女など、コンサートでも活躍し、『ヴェーゼンドンク歌曲集』、ヴェルディ『レクイエム』、『大地の歌』『グレの歌』などがあり、クラウディオ・アバド、チョン・ミョンフン、クリスティアン・ティーレマン、ファビオ・ルイーゼ、クルト・マズア、クリストフ・エッシェンバツハらと定期的に共演している。ウィーン・フィルをはじめとする一流オーケストラにも定期的に招かれており、パツパーノ指揮『トリスタンとイゾルデ』をはじめCDも多く発売されている。新国立劇場では01年『ラインの黄金』と02年『ワルキューレ』のフリッカ、01年『ドン・カルロ』エボリ公女、04年『神々の黄昏』ヴァルトラウテ、06年『イドメネオ』イダマンテに出演。

**【アルベール】黒田 博****Albert : KURODA Hiroshi**

京都市立芸術大学卒業、東京藝術大学大学院修了。1988年『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールでオペラ・デビュー。これまでに『ラ・ボエーム』『ニュルンベルクのマイスタージnger』『エウゲニ・オネーギン』などに出演。最近では二期会『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『パルジファル』アムフォルトス、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『タンホイザー』ヴォルフラム、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『椿姫』ジェルモン、びわ湖ホール・iichiko 総合文化センター・神奈川県民ホール『オテロ』イアーゴなどに出演。新国立劇場では『天守物語』姫川図書之助、『こもり』ファルケ博士、『忠臣蔵』堀部安兵衛、『俊寛』タイトルロール、『愛怨』若草皇子、『黒船一夜明け』吉田、『軍人たち』マリ大尉、『修禅寺物語』面作師夜叉王、『鹿鳴館』影山悠敏伯爵、『夜叉ヶ池』学円、『沈黙』フェレイラ、『ラインの黄金』ドンナー、オペラ鑑賞教室・関西公演『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。2017/18シーズンは『フィデリオ』ドン・フェルナンドに出演。二期会会員。

**【ソフィー】幸田浩子****Sophie: KOUDA Hiroko**

東京藝術大学首席卒業。同大学院、文化庁オペラ研修所終了後、ボローニャとウィーンで研鑽を積む。数々の国際コンクールに上位入賞後、欧州の主要歌劇場へ次々とデビュー。ベッリーニ大劇場『清教徒』エルヴィーラ、ローマ歌劇場『ホフマン物語』オランピア、シュトゥットガルト歌劇場『皇帝ティートの慈悲』セルヴィーリア等で活躍。2000年にはウィーン・フォルクスオーパーと専属契約。同劇場『ファルスタッフ』ナンネッタ、『魔笛』夜の女王等に出演。日本では、二期会『ばらの騎士』ゾフィー等に出演の他、主要オーケストラとの共演や全国各地でのリサイタル、またNHK「気ままにクラシック」のパーソナリティやBSフジ「レシピ・アン」のMC等多彩な活動を展開。第14回五島記念文化賞オペラ新人賞、第38回エクソンモービル音楽賞奨励賞受賞。新国立劇場には『ナクソスのアリアドネ』ツェルビネッタ、『ホフマン物語』オランピア、『チェネレントラ』クロリンダ、『鹿鳴館』顕子、『夜叉ヶ池』百合などに出演している。2018/2019シーズンは『ファルスタッフ』ナンネッタにも出演した。二期会会員。



新国立劇場 2018/2019シーズン

ジュール・マスネ
ウェルテル
Jules Massenet / Werther
全4幕〈フランス語上演／字幕付〉

【公演日程】2019年3月19日(火)18:30／21日(木・祝)14:00／24日(日)14:00／26日(火)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:23,760円・A:19,440円・B:12,960円・C:7,560円・D:4,320円・Z:1,620円

【前売開始】2018年11月17日(土)

指揮……………	ポール・ダニエル	ウェルテル……………	サイミール・ピルグ
Conductor	Paul DANIEL	Werther	Saimir PIRGU
演出……………	ニコラ・ジョエル	シャルロット……………	藤村実穂子
Production	Nicolas JOEL	Charlotte	FUJIMURA Mihoko
美術……………	エマニュエル・ファーヴル	アルベール……………	黒田 博
Set Design	Emmanuelle FAVRE	Albert	KURODA Hiroshi
衣裳……………	カティア・デュフロ	ソフィー……………	幸田浩子
Costume Design	Katia DUFLOT	Sophie	KOUDA Hiroko
照明……………	ヴィニチオ・ケリ	大法官……………	伊藤貴之
Lighting Design	Vinicio CHELI	Le Bailli	ITO Takayuki
再演出……………	菊池裕美子	シュミット……………	糸賀修平
Revival Director	KIKUCHI Yumiko	Schmidt	ITOGA Shuhei
舞台監督……………	大仁田雅彦	ジョアン……………	駒田敏章
Stage Manager	ONITA Masahiko	Johann	KOMADA Toshiaki

合唱指揮……………	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
児童合唱……………	多摩ファミリーシンガーズ
Children Chorus	Tama Family Singers
管弦楽……………	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

芸術監督……………	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/>

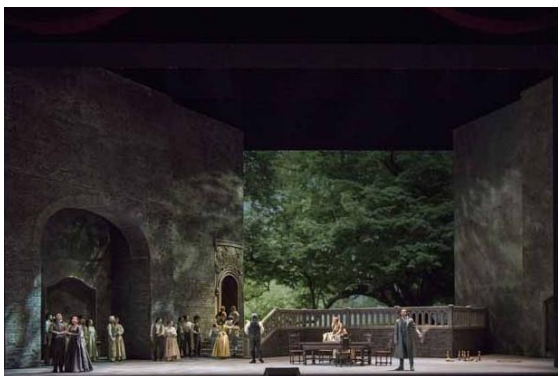
【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

- * Z席 1,620円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。
- * 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

★宣材のご提供について…本演目はレパートリー（再演）公演です。過去の上演の記録写真を宣材としてご提供いたします。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】

撮影：寺司正彦